学校番号	3030

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	東京書籍「書道Ⅰ」						
副教材等	ペン習字の基礎						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写で学んだことを発展させ、文字の表情の違いによる表現を学びましょう。
・楷書、行書、草書、篆書、隷書、仮名などのさまざまな書体を体験し、自分らしい文字を書くことをめざします。
・自分自身の書作品を制作し、表現する力を伸ばします。
・多様な作品に触れ、書を鑑賞することで、幅広い感性、鑑賞力を身に付けます。

2　学習の到達目標

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
(2) 書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の多様性を理解しつつ、古典作品の特徴や用具・用材の知識および表現するための基礎的な技能を習得している。	書作品の制作において、意図に基づいて構想し表現を工夫している。また、古典作品や他者の作品について鑑賞し、表現に生かすことができている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期前半	硬筆 書写から書道へ　漢字の書(楷書)	・書写と芸術科書道 ・芸術の鑑賞について ・文房四宝 ・楷書について ・九成宮禮泉銘 ・孔子廟堂碑 ・自書告身 ・牛橛造像記 ・硬筆	a: 書写と書道の違いをふまえ、楷書の書体や書風を理解し、基本的な用筆・運筆の表現の技能を身に付けている。 b: 楷書の古典に即した用筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。また楷書のよさや美しさを味わっている。 c: 書表現をするために楷書の用筆法を身に付け、主体的に活動に取り組もうとしている。	観察 提出作品	観察 鑑賞カード 作品制作シート 提出作品	観察 授業プリント 作品制作シート 提出作品
前期後半	漢字の書(楷書・行書)	・蘭亭序 ・風信帖 ・楷書行書による創作作品制作	a: 行書の書体や書風を理解し、基本的な用筆・運筆の表現の技能を身に付けている。 b: 行書の古典に即した用筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。また行書のよさや美しさを味わっている。 c: 自身の作品制作に、主体的に活動に取り組もうとしている。	観察 提出作品	観察 鑑賞カード 作品制作シート 提出作品	観察 授業プリント 作品制作シート 提出作品 提出課題
後期前半	仮名の書 漢字の書(草書・隷書・篆書)	・曹全碑 ・泰山刻石 ・仮名の単体 ・連綿	a: 草書・隷書・篆書・仮名の成り立ちを理解したうえで、基本的な表現の技能を身に付けている。 b: 草書・隷書・篆書・仮名それぞれが違った美しさを持ち用筆法も違うことを理解し、自分の作品に工夫しながら生かしている。 c: 草書・隷書・篆書・仮名のそれぞれの異なった用筆法を習得し、自分の作品に生かすことに主体的に取り組もうとしている。	観察 提出作品	観察 鑑賞カード 作品制作シート 提出作品	観察 授業プリント 作品制作シート 提出作品
後期後半	漢字仮名交じりの書 仮名の書	・変体仮名について ・蓬萊切 ・高野切第三種 ・自身の書を制作 ・潤渇と全体構成 ・硬筆	a: 漢字や仮名の美しさが現代に生かされていることを理解し、線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。 b: 作品の意図、構成を明確にし、紙面の大きさに応じて工夫しながら生かしている。また作品のよさを味わっている。 c: 漢字作品、仮名作品の幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	観察 提出作品	観察 鑑賞カード 作品制作シート 提出作品	観察 授業プリント 作品制作シート 提出作品 提出課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度